

全科協ニュース

- おもな内容：◇年頭にあって 全科協理事長 諸澤正道
 ◇今年の抱負 加盟館園長
 ◇第74回全国図書館大会に参加して 府中市郷土の森博物館 石川博幸
 ◇企画展「おろう そめよう 布まつり」 広島こども文化科学館 森野滋夫
 ◇全科協米国科学系博物館視察研修団 無事帰国
 ◇加盟館紹介 豊橋市自然史博物館

年 頭 に あ た っ て

全国科学博物館協議会

理事長 諸 澤 正 道

全科協の皆さんに、新年のご挨拶を申し上げます。各会員館園におかれては、今年もさまざまな企画のもとに新たな飛躍を期しておられることと存じます。心から一層の御発展をお祈りいたします。

昨年全科協の加盟館は135館に増え、事業内容も会員館園相互に特別展示用の資料の貸出し事業、展示資料等の交換が活発に行われ、事業研究会、海外視察研修などの事業も実施されました。これらは、それぞれの館園の展示・教育普及活動等に大いに役立てていただけたものと存じます。

なかでも、昨年12月に第5回全科協主催「米国科学系博物館視察研修」を実施しましたところ、参加された方々から大変有意義かつ充実した研修ができたとの報告があり、うれしく思います。2週間程の短期間ながら、訪問館の専門職員から詳しい説明を受けたり、教育活動や展示技術について相互に意見交換をする機会を持つことができ、得るところが大

きかったと思います。そのレポートは、本紙でも掲載する予定ですので、御参考にしていただけるものと思います。各館園で、この事業の意義を再認識され、今後の職員派遣に格別の御協力をくださるようお願いいたします。

また、昨年の総会で全科協加盟館園の実態調査を実施することになり、これも加盟館園の今後の企画に利用できるものと思います。近く開催予定の全科協博物館事業研究会においては、科学博物館の展示・教育普及活動をテーマに、各館園の経験をふまえて研究協議を深めていただきたく、計画を進めております。

さらに、特別展のための展示資料の相互交換、情報交流等の事業を一層推進し、各館園の事業の充実に役立てていただけるよう努力したいと考えております。

本年もどうぞ皆様の御協力をお願いいたします。

今 年 の 抱 負

宮崎県総合博物館長 黒 木 淳 吉

当館は、自然史・歴史・美術部門を合わせもつ総合の博物館で、今年、開館19年目を迎えます。

本年は新年早々の1月21日から2月19日まで、特別展「大淀川の自然」を開催します。大淀川は、遠く鹿児島県や熊本県に源を発し、太平洋に流れ込む宮崎県内最大の一級河川です。堤防には四季とりどりの草花が咲き、流れは水鳥たちの楽園となっています。「ふるさと川の生命の営みを探る」をテーマに、展示会では大淀川流域で生活する動物や植物を、標本を中心に写真やパネルで紹介いたします。親しまれる博物館をめざして、充実に努めたいと思っています。

宮崎科学技術館長 緒 方 国 博

当館は、昨年8月開館一周を迎え、入館者も20万人を突破しました。これも関係各位のご指導ご支援の賜物と感謝いたしております。

本年は、開館一周を記念し、新しい屋外展示として現在工事を進めているH-Iロケットの実物大モデルが完成します。

世界最大のドーム(直径27m)をもつプラネタリウムと共に、また新しい大きな目玉が誕生することになり、子どもたちの宇宙への夢が一層広まっていくものと思います。

 今 年 の 抱 負

佐賀県立博物館長 出 和 人

当館は昭和45年開館の総合博物館です。自然・考古・歴史・民俗・美術の5分野を展示しています。

昨年未だに展示替をし、内容を新たに今年はスタートをします。当県は九州の北西部にあり、有明海のオオシャミセンガイを始め、めずらしい動・植物を産します。

今年の重点目標として、教育普及の拡大と資料の充実をあげています。自然部門では、佐賀県の岩石・鉱物・化石・植物・昆虫・鳥類の調査と資料の収集を計画しています。今年も御指導・御協力のほどお願い申し上げます。

北九州市立児童文化科学館長 柴 田 修

昭和45年プラネタリウム開設以来、皆様方のご支援をいただき、昨年春には、152万7千人（い〜こにな〜れ）入場記念行事や、アイドルキャラクター「シリウスくん」の製作をいたしました。

本年は、新年早々、天文館の改築工事に着手し、7月には新装なったプラネタリウムドームでの投影も開始されます。本年も、職員一同新たな気持ちで、新しい時代を目指して一層力強く取り組んでまいりたいと存じます。

今後とも、よろしくご指導ご支援を賜われますようお願い申し上げます。

北九州市立交通科学館長 筒 井 昇

今年7月で開館5年目を迎えます。昨年実施した来館者のアンケートによりますと、楽しかった、また来たいという声と共に展示物の更新と充実についての要望が一番多くありました。

当館が皆様に愛され、生活の中に定着し、活用されるためには、今後の努力によるところが大きいかと思います。

今年は展示物整備5ヶ年計画を立案し、常に最新の情報と技術を伝えるように内容の充実と更新に努めてゆきたいと思います。

九州エネルギー館長 本 村 善 岱

昨年は、開館時間を1時間繰り上げ、午前9時から午後5時までとするなど運営面での改善を行うとともに、館内展示の一部改装を行うなどお客さまのご期待に添うよう努めてまいりましたが、本年も、皆さまに、より一層エネルギーについてのご理解を深めていただけるよう展示内容等の改善をはかる所存であります。

イベントについても、とくに春休みや夏休みなどご家族お揃いで楽しんでいただけるものを企画実施したいと考えております。

愛媛県立博物館長 岡 部 福 和

当館は、本年4月で、開館30周年を迎えます。その間、多くの皆様の温いご指導とご援助により、順調に発展してまいりました。館蔵資料も、年々増加し、愛媛県の動植物を中心に、14万点をこえることになりました。本年は、この資料を充分に活用して、愛媛県の自然界を広く紹介し、理解を深めるため、開館30周年記念「愛媛の自然展」を開催することといたしております。また、博物館開館と同時に、その館外活動の組織として創立され、愛媛県の自然科学に関する学習活動に、大きく貢献してまいりました「愛媛自然科学教室」も、創立30周年を迎えることとなりますので、これを機会に、「愛媛自然科学教室30年のあゆみ展」の開催など記念事業を実施したいと思っております。

香川県自然科学館長 大 西 隆 雄

県内の中学2年生を対象とする3泊4日の集団宿泊学習も19年目を迎えています。自然との触れ合いを通して生徒たちに科学する心を育てる野外体験学習の指導をする一方、新たな教材開発・館内展示の充実を図りたい。ささやかですが、20周年事業も計画しています。

館行事として、春・秋の自然観察会、夏休み親子ふれあい教室、特別展の開催等を工夫して入館者の増加をはかりたい。また、館所蔵の資料等を貸し出すなど、県民のための開かれた館にしたいと考えています。会員の皆様方の御協力と御支援をお願いいたします。

広島市こども文化科学館長 古 川 克 之

昨年4月から新規事業としてはじめた、ボランティアによるワークショップ「楽しい工作室」が、たいへん好評を得ています。毎週日曜日の午後、ボランティアの方がくふうした題材で、小学校低学年の子どもたちが自由に参加し、自分で作る楽しさを味わっています。

毎年実施している夏の企画展、今年は「五感・感覚の世界」をテーマに、魅力あるイベントにしたいと職員一同はりきっています。また、当館は来年5月に開館10周年を迎えます。今年は、その記念事業の準備等でも忙しい年になりそうです。

 今 年 の 抱 負

神戸市立青少年科学館長 佐野 雄一郎

昭和62年の新春に工事中でした当科学館の新館も、皆様の御支援により、本年4月、神戸市制百周年記念事業の一環として開館するはこびとなりました。

既存の本館が、科学の原理・原則の紹介を主な展示テーマとしているのに対し、新館では現代の先端的科学技術を主とした応用科学の分野を展示いたします。展示構成は「創造性の科学」「都市の科学」「生命の科学」の三分野から成っており、いずれの分野も映像やコンピューターなど最新の機器をふんだんに使った参加型の展示で、小さな子供から大人まで十分楽しみながら学んでいただけるものと考えております。是非一度御来館くださいますようお願いいたします。

放送文化館 塩川 有三

当館は今年開館10年を迎えます。放送文化と放送技術の発展をわかり易く展示し、正しい放送知識の普及と啓発を目指してスタートして以来、西日本唯一の放送博物館として多数のご来館をいただいております。開館10年を機会により一層地球社会の方々との交流、特に青少年とのコミュニケーションを深め「楽しく・学べる」ふれ合いの場として、今まで以上に展示内容の充実を鋭意努力してまいりたいと存じます。ニューメディア時代の進展と共に放送文化のあり方を紹介する当館の役割は今後ますます重要性を増していくことと思っております。

交通科学館/JR西日本 館長 井手 正 敬

昨年は企業の博物館が話題を呼び、誠に喜ばしい年でございました。当館も国鉄の改革に併せて、新たに歩みを始めております。

鉄道は、産業構造の変革の中、技術・サービスとも大きく変化しつつあります。また昨今では浮上式鉄道実現の声が高まるなど、その姿を加速度的に変えようとしております。こうした時、当館の役割は、鉄道の歴史的役割や未来の方向を、地域社会の皆様が自由に、お考えいただける場でなければならないと考えています。点在する史料の収集展示、鉄道技術の紹介などを核に、鉄道文化を更に未永く守り、育てていきたいと存じております。

鳥羽水族館長 中村 幸 昭

一九八九年の新春を迎え心あらたまる思いです。激動の時代といわれ博物館も栄枯盛衰の波の中にいる感じがいたします。当館も本年は開館三十四周年を迎え、従来の土地も狭く建物も老朽化してまいりましたので、今年二月、新鳥羽水族館の建設を着工いたします。総工費百億円を投じて我が国の代表的な国際級の水族館をめざし

ます。ハイテク、ニューメディアを駆使し過去のイメージを一新し文化や情報の発信基地となるよう学術的研究施設を拡充する予定です。社会教育施設としての博物館として人々に愛され夢とロマンを抱いていただくようベストをつくしたいと念願いたしております。

博物館明治村 館長 関野 克

明治村には現在58件の建造物が展示されており、それらは明治・大正時代の建築の近代化を語るものであるが、ギリシャ・ローマ時代の様式に源をもつ欧州の近世様式の石造建築に恵まれていなかった。しかし今年度は、明治42年に宮城大手門前に建てられた内閣文庫のパラディオ風の石造建築の移築保存工事に着手し、1990年の明治村開村25周年迄に完成を期している。

その一方で、特別展として、1989年春に「明治の衣裳展」、秋にシリーズ展示「土木100年のあゆみ」の第2回として、札幌・名古屋・北九州の3都市を取り上げる。

半田空の科学館長 岩本 甲子三

「石の上にも3年」という言葉がありますが、皆さん方のご指導ご協力を頂戴しながら4年目を迎えることになりました。新しい節目の年度として、さらに大きな飛躍に結びつけるよう努力することを誓っております。

本年は、隣接の半田市博物館が開館5周年を迎える年度でもあり、両館共同企画の特別展「からくり人形からロボットまで」(仮称)を実施する考えです。開館当初からの合言葉「過去から現在、そして未来まで」の実現です。地域の文化遺産に学び、新しい時代への対応を考える場になればと、成功を願う気持ちでいっぱいです。

豊橋市自然史博物館長 藤城 清 志

恐竜アトサウルスの実物化石をメイン展示物とし、地球の歴史、生物の進化をテーマとした自然史博物館です。昨年の5月に産声をあげオープンしたばかりの未熟な館ですが、今後博物資料(特に進化に関連した化石及び郷土の自然史資料)の充実を図って、来館者に愛され自然科学の中核となる博物館を目指し頑張っていきたいと思っております。当面新年度の重点事業として、「J.H.ファーブル」の特別展及び約5万点の貝類標本(高桑コレクション)の分類整理などがあります。また将来的には各展示室ならび特別企画展示室の増設を計画しています。

先進館との情報交換などにも力を入れますので、今後ともご指導くださるようお願いいたします。

 今 年 の 抱 負

でんきの科学館長 帆 高 寿 壮

当館設立の主旨は、電気の歴史や原理、発電所から家庭に届くまでの電気の流れを実物や模型、映像や体験装置などによりわかりやすく説明し、電気と電気事業について一層の理解を得るとともに、広く科学知識の向上に役立てることです。

昭和61年7月21日開館以来、夏休み・春休みには設立の主旨に添った楽しい特別イベントを実施した他、毎月小学生を対象に電気工作教室を開くなど、各会員の皆様のご指導を賜りながら広く科学知識の向上に役立つよう努力しています。

また、開館以来3年目を迎え「三つ子の魂百まで」という諺もあるように、科学館としての基礎固めの年となるよう邁進いたします。

市立名古屋科学館長 岡 田 博

本年は名古屋市政百周年にあたります。その記念行事の主たるもの一つとして、本館の西側に昨により建設中であった“生命の科学棟”(床面積約7000㎡)が間もなく完成致します。それと共に在来の物理工学を主体とした産業棟やプラネタリウムや天文棟なども内部の改装と展示品の更新を昨年夏より実施していきまして、本年四月末には面目を一新した科学館としてお目見え出来る予定です。そこで施設のみならず運用の点においても新機軸を考え、青少年や一般市民の科学教育のみならず、科学に興味を抱かせる楽しい場処にしたいと館員一同念願しています。

浜松科学館長 桜 場 周 吉

オープンを記念して植樹した、ニュートンの「リンゴの木」も今年は待望の結実が期待される中で新しい年を迎えることができました。

昨年も全国各都市から視察をいただき新たに計画・予算化・開館の話を見聞し、全科協会員として喜ばしい次第です。開館3年4ヶ月の今年8月頃には50万人突破するものと推測しております。

年次計画では、科学学習情報システムの調査研究も進み本年度は、館内設置とソフト開発へと科学情報進達の核(基地)としての役割を積極的に計画してゆきます。5月には全日本プラネタリウム協議会の全国大会開催の大役をおおせつかり、充実した年だと期待しています。

今年も来館していただく、皆さんと共に「科学する心」をはぐくみ、おどろき・ときめき・ひらめきを象徴するニュートンの「リンゴの木」を職員一同大切にしてお順調に成育するよう祈願しております。

東海大学自然史博物館長 青 木 斌

昨年(1988)の10月1日付で、館長に就任しました。「年頭の抱負」を語るまえに、まず、今後のご指導とご援助をお願いしたいと思います。

これまでの館長の努力があったので、恐竜や貝類の展示品はたいへん充実してきました。これをもっと発展させたいのが、私の第一の目標です。

三原山火山調査・コバルトクラスト(海底資源)調査など、《東海大調査団の研究成果》が展示できるようになればと願っています。これが私の第二の目標です。

静岡市立児童会館長 山 下 定 男

34年目を迎えました。徳川家康公ゆかりの地、駿府公園内にあります児童会館は、公園整備の構想のもとに数年先には移転を余儀なくされる結果となります。

本年の課題は、児童会館の必要性を実質的に価値づけるための、事業の内容充実と新館への設計図をうちたてることだと考えます。

関係ある施設を持った方々から、ご指導ご鞭撻をいただかなければなりません。よろしく願いたします。

岐阜県博物館長 森 崎 利 光

当館は、総合博物館として県民の生涯教育の推進の一役を担い、教育文化の向上に寄与するよう常に心がけ、より多くの人々に来館していただくよう、催し物を企画してきました。昨年の10月に開館以来120万人目の来館者を迎え、益々魅力ある博物館にと、今年も特別展を計画しています。

特別展「ふるさとの野鳥」は、県の鳥がライチョウであることから世界のライチョウコーナーを設けたり、鳥の生態とか、ふるさとの野鳥を紹介し、野鳥と人とのかわりを考えたいと思います。

山梨県立青少年科学センター館長 長 島 昭 夫

山梨県では、21世紀に向けて「たくましい心豊かな人づくり」を目ざした山梨教育が提唱され、ちょうど10年の節目を経過しました。この山梨教育は、大きな社会情勢の変化の中で、「郷土教育」「生涯教育」「環境教育」を3本の柱として実践の輪を広げています。

当センターも「青少年の科学の芽を育てよう」を合言葉に、暖かい、心のふれ合える施設づくりに取り組んでいます。

今年が開館以来24年を迎えます。ますます施設の活性化に向け努力したいと思います。よろしくご指導をお願いします。

今 年 の 抱 負

石川県白山自然保護センター館長 澤 口 良 雄

昨年から白山林道に大型バスが通行可能になったため、林道の入口にある「中宮展示館」への来館者は、前年に比較しておよそ2万5千人増加して6万人を越えました。展示館では新たに「白山のツキノワグマ」のコーナーを新設しました。当センターでは昭和55年度から5か年間ツキノワグマの生態について総合的な調査を行なっており、その際に得られた成果を中心にオートスライドやパネルを用いて解説しました。本年は、白山の主要登山道の入口にある「市ノ瀬ビジターセンター」と頂上部の宿泊所（室堂）内の展示を改装する予定です。

富山市科学文化センター館長 長 井 真 隆

今年は当館が開館して10周年になります。

お陰様で各種事業が順調に進み、中でも収蔵標本が20万点にもなりました。これを機会に別館の新設工事を行なっていますが、広さは約1,000㎡、1階は学習室、2階が特別展示室、3階が収蔵庫です。竣工を記念して、7月20日から11月12日まで「深海展」を企画し、現在、鋭意準備しているところです。

何かとお世話をお掛けすることと思いますが、その節はよろしく願います。また併せてご来館下さいませよう申し上げます、新年の挨拶と致します。

新潟県立上越科学館 リージョンプラザ上越

支配人 藤 原 治 郎

本年10月に開館5周年を迎える当館の入館者は250万人を数え、本年度中に3百万人を突破したいと期待している。上越市はもとより県内近県からも教育・文化・スポーツの中核施設としての役割を自覚し、利活用対策を熟慮し対処していきたいと考えている。

修学旅行時期や小中高校の夏季休業中に子供から大人まで楽しめる多彩な催物や特別展を企画し、微少なから減少傾向にある入館者数に歯止めをかけ逆方向に転進させたいと思っている。そのためには展示展示物の更新や創意ある企画によって一層の集客を図ってきたい。

新潟県立自然科学館長 長谷川 正 明

昭和56年に開館以来、7年経過し、入館者は、150万人に達しました。理工系と自然系の展示物を有し、「自然科学」「生活の科学」「不思議な広場」「新潟県の移り変わり」の4コーナーに分かれて、参加体験型を重視した展示をしています。昭和61年度から実施している展示物の更新事業は、今年の3月には、リニアモーターカー等先端技術を導入した展示を公開します。楽しみながら科学を学べる博物館にしたいと、職員一同頑張っております。

東芝科学館館長 中 村 清 志

益々強まる情報化社会の中で、特に企業博物館の持つ機能への期待が社会一般及び企業それ自体の中から強まりつつあるのを感じています。一昨年のロボット導入を中心とした重電部門の充実に引継ぎ、昨年は家庭と情報に関連した展示の改修を実施したためか最近主婦層を中心とした婦人団体が目立って来ているのを感じます。日常生活に技術の進歩がどの様にインパクトを与えるかが大きな関心事となっている様です。今年は半導体及びOA関係を中心に改修を行いたいと考えています。

川崎市青少年科学館館長 佐 藤 賢 一

年が改たまると、いつでも気持ちの引締る思いがします。当館では、昨年調査報告を刊行して一段落した川崎市自然環境調査に引続き3年計画で未調査分野の調査を、現在進めているところです。出来るだけきめ細かく行き届いた調査にしたいものと、今年も職員一同意欲満々です。地道に着実に、健康で館経営に努力して参りたいと考えています。此度の調査も自然に興味を持つ市民の参加を得て行っていますが、全国的にも、この様な例はまだ珍しいのではないかと思います。

尚、現在当館は展示の一部更新等改修工事のため休館中です。D51型機関車もお色直しを行い、1月21日には、生田緑地にふさわしい景観を添えることとなります。

横須賀市自然・人文博物館館長 田 邊 悟

本年は自然博物館の建物ができてから20年目にあたり、また、人文博物館がオープンして7年目となる。

しかも、本市第四次五ヶ年計画の四年次に位置するため、本館はもとより、自然教育園内外の一層の充実をはかり、第五次五ヶ年計画にむけての〈準備の年〉とし、あわせて、博物館活動を充実発展させる所存である。

なお、特別展示として、①「三浦半島の植物」と②「三浦半島の自然」（久里浜地区）を予定しているほか、馬堀自然教育園の新設「学習棟」の多面的な活用を計画している。

横浜子ども科学館館長 牧 野 昇

今年、当館は開館5周年、横浜市は市政100周年を迎えます。この機会に、より魅力のある、より親しみのある科学館にするため、大幅な展示更新をし、1月2日から公開します。宇宙スポーツ室は未来の宇宙飛行士のためのトレーニング基地に、宇宙都市横浜はスペースコロニーをテーマとし、新しく生まれ変わりました。

今後、ますます身近なものになる「宇宙」を楽しみながら体験することによって、21世紀を担う子どもたちの「発見」や「夢」を育てる場となることを願っています。

 今 年 の 抱 負

神奈川県立青少年センター館長 原 弘 孜

昭和37年開館以来、青少年の健全育成のため、文化・科学・芸術を中心とした総合施設として、種々の事業を展開してまいりました。

科学展示場の入場者数も、この1月で延600万人になろうとしています。

今年は、隣接のみなとみらい21地区において、横浜博覧会が催されますが、これを契機に、科学展示場をより充実させる予定です。

これからも青少年の夢を育てる施設として、一層の有効活用を図り、21世紀に生きる青少年の期待に応えられるよう、努めてまいりたいと思います。

パルテノン多摩事務局長 佐 藤 清 一

昭和62年10月31日のオープンより一年余を経て、本年も益々館の運営の充実をはかりたいと考えています。

当館は、大小ホールとの複合文化施設ということで、ホールでは音楽会や演劇、映画等の催し物が数多く行なわれ、国内および海外の一流の演奏家や劇団の妙技をお楽しみいただいております。今年は博物館の方も様々な新しい試みや企画展等も行なって、当館を利用する方々の期待に応えたいと考えております。

より多くの人々にこのパルテノン多摩の名前を知っていただくよう奮起したいと思います。

東京農工大学付属繊維博物館長 平 林 潔

一昨年より繊維素材特別展を開催し、すでに絹、綿については好評のうちに終了いたしました。引き続き本年も麻を取り上げ、素材から織物までを見ていただく予定で着々と準備を進めております。

また昨秋、第3回科学技術展も開催いたしました。これは農工大学における研究成果を世に問うもので、昨年は4日間に7千人余りの方々に見ていただきました。本年も皆様の意向を取り入れ、さらに内容を充実し張り切っておりますので、どうぞ宜しく願いいたします。

府中市郷土の森博物館長 関 根 恒 男

本年4月4日で満2周年を迎えます。郷土の森建設事業も第2期工事が3月中に完成し、当初の計画が完了いたします。市制施行35周年と併せて市民利用者の方々に益々親しまれる博物館づくりをめざし、特別展や、各種行事、資料収集等の事業を計画しております。

今後とも、広く皆様方に愛され、親しまれる博物館にしていきたいことを目標としております。よろしく、御指導、御協力のほどお願いいたします。

東京都高尾自然科学博物館長 鹿 山 実

当館では、常設展示資料の一層の整備充実を期して毎年ジオラマ等の展示更新を行ってきましたが、本年は、両生・爬虫類コーナーの一角に「蛙合戦」(ヒキガエルの産卵状況)のジオラマを新設すると共に既存のコルトン模型「自然のしくみ」を「イヌブナ林」(初夏と秋)のカラーコルトンに一新する予定であります。併せて施設整備の一環として「館内冷暖房設備設置及び玄関出入口自動扉設置工事」を行う計画もあり、入館者サービスの向上に全員一致協力して努力していきたいと思っております。

サンシャインプラネタリウム館長 佐々木 永 祐

昨年10月より開館以来11年目に入り、今年は、冬番組「さらば神の宇宙よ!」～天文学を拓いた偉人たち(チコ・ケプラー・ガリレオ)～で新しい年を迎えました。

プラネタリウム本体のオーバーホールをはじめ、館内全体の大改装が終了しましたので、より明るい、楽しい、そしてわかりやすい番組を放映したいと思っております。また、「星空散歩」・「星と音楽との語らい」や、例年主催しております「アストロフェスティバル」・「天体写真コンテスト」なども引き続き開催し、プラネタリウムのファンの皆様へのサービスと併わせて当館との交流を大いに深めたいと思っております。開館11年目を新たな出発点とし、館員一同これからもプラネタリウムの発展により以上の努力を傾注して参りますので何とぞ本年もよろしくご指導、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

東京都児童会館長 柿 崎 茂 樹

本年は当館の開館25周年にあたります。時の流れとともに都民の東京都児童会館に期待するものも大きく変化してまいりました。

東京都児童会館では、一昨年より「東京都児童会館の在り方について」の検討委員会を設け、より親しみのあるこどもの遊び場づくりのため検討を重ねてまいりました。本年は、これを実施に移す年度であります。

科学展示室は「科学のフロアー」と銘打ち、既存の参加型科学展示物の他、最新の機器を備えた無線交信室、楽しいソフトを満載したパソコンコーナー、昆虫・貝殻・岩石標本室、電子工作コーナーを整備します。また、地下1階にはこどもたちが自由に楽しい実験ができるよう、新型実験台を揃えた科学実験コーナーを整備し、こどもたちの夢を育む楽しい東京都児童会館として再出発します。

 今 年 の 抱 負

天文博物館五島プラネタリウム館長 山 本 忍

当館は昨年に引き続きキメの細かい対応を実施していきたいと考えて居ります。最近特に永年経過した施設の疲弊が甚だしく、今後はこれ等を一つ一つ点検して改修工事を実施して行きたいと思えます。

日博協で何十年と継続して実践していただけて居ります。私立博物館に対する寄付金の無課税措置が一日も早く実施される事を望んで止みません。当館が今後施設を改修して、より発展させる道はこの一事にかかって居るからです。

たばこと塩の博物館長 奥 田 雅 瑞

当館は、昨年11月に10才の誕生日を迎えることができました。10年間に皆様からいただいた温かい協力に対し、心から御礼申し上げます。今年から、新たなスタートを切るつもりで館活動に取り組みたいと存じます。今後とも宣しくご指導下さいませようお願い申し上げます。

1989年は、11回を迎える「博物館夏休み学習室」で、塩を科学的に捉えるなかで、学校教育との関連を深めていきたいと考えております。また、秋には、「金唐草」をテーマに、江戸時代の東西関係を探る特別展も企画しております。ご期待下さい。

目黒寄生虫館長 亀 谷 了

近年、各地の大学より、物故寄生虫学者の蔵書寄贈が相次いでいる。私は、これは、わが館にとって、もっとも重要な事の一つで、この方面の努力が大切だと考えている。寄贈者に対する最大のお礼は、その文献の整理と公開であろうと思う。その意味でわが館では、これらの文献をカードで整理すると同時に、コンピューターに入れて国際的に役立たせようと思っている。この事業は絶対やりとげる所存である。御期待下さい。

ガスの科学館長 戸 田 瑞 穂

当館は本年開館4年目を迎え、今迄に約30万人の方々に来館いただきました。豊洲という立地性から最近かまびすしく報じられている東京湾再開発計画で科学館としては勿論、展望塔も含めて脚光を浴びています。こうした構想と相まって付近の施設も充実—有楽町線豊洲駅の開業、夢の島植物園の開業、また近年中には東京港連絡橋や葛西水族園等が完成する予定です。こうした中、本年は①海上ルートの積極的検討②ライブ性を重視したスタジオの拡充等を行います。また、夏休みを利用した各種イベントも計画しており、これらを通じ「遊びながら学ぶ」施設として一層の充実を図ってまいります。

郵政研究所附属資料館（通信博物館）

館長 中 村 弓 男

当館は、昨年の9月より24年振りに建物内部の大改修を行っており、併せて展示もかなりの経費をかけて、全面的に一新しております。

新しい展示場には、通信の歴史資料のほか、郵政事業や電気通信事業の新しい制度を理解してもらうための展示物や、ニューメディアを陳列します。また、ビデオやマジックビジョンを要所要所に配置して、来館者が見やすいようにします。

今年は当館にとって記念すべき年ですので、これを機に、従前にも増して職員一体となって、来館者に楽しみながら学んでもらう博物館を目指して努力したいと思います。どうぞ今年もよろしく申し上げます。

科学技術館長 久 保 俊 彦

80年代最後の今年、当館は開館25周年を迎えます。

日本の歴史の中でも革命的な時代であったとも言える20世紀後半の科学技術時代に、我が館もその普及啓蒙機関として社会に貢献できたことを誇りに思います。

いま、その25周年を迎える記念事業として、仮称「発見劇場」の建設を進めております。ここは、実験と映像とパソコンを組み合わせた新しいタイプのインタラクティブホールであり、科学に対する原体験を重んじながら、新しい技術にも触れていただこうとするものです。

皆様の御高覧を心よりお待ち申し上げます。

交通博物館長 井 上 邦 之

余暇時間の増加から近年、教養娯楽への関心がますます高まり、関連施設の利用が大幅に伸びていると言われています。

こうしたなかで、当館は、楽しみながら学べる博物館として、魅力ある展示、催物を実施し、生涯教育の場及びレクリエーションの場として、できるだけ多くの方々に利用して載せたいと考えております。

展示関係では、新幹線シミュレータの新設をはじめとする鉄道部門の整備と航空室の充実に向け、催物では、特別企画として、昨年収集した江戸期の交通資料を「江戸時代の交通」というテーマで、資料を随時入替え1年間展示紹介する予定です。その他、春・夏・冬の学校休みの期間及び各種交通に関連する記念日を中心に、魅力ある参加・体験型の催物を企画しております。

職員一同も、より親しめる、満足していただける博物館として鋭意努力したいと考えております。

 今 年 の 抱 負

千葉県立郷土博物館長 山田 聡

博物館の館長として2年目の新春を迎えました。博物館の活動や運営の醍醐味が序々にわかってきたところです。さて全国各地に大型のプラネタリウムが設置されつつある昨今、当館は径10mの小さなプラネタリウムではありますが、独自の活動を目指し、数年前から天文の科学史資料の収集・調査またレプリカの製作などを行っています。さらに、本年は西洋や東洋の古星図、また錦絵や絵巻物に描かれた星をテーマに特別展「星の美術」を秋に開催する予定でありますので皆様方のご協力よろしくお願ひ申し上げます。

埼玉県立自然史博物館長 紺野 雄三

春とはいえ厳寒の候。当地長瀬は観光地のせいもあって、入館者が少ない時期であります。当館ではこのリズムを利用して、年度テーマのコーナーを模様替えすべく目下努力中のところです。

63年度テーマ「平野の自然」に続き、次年度は「山地の自然」であります。

中津川をとり囲む山々の地質・鉱物と、そこに棲む生物を題材にしています。学芸員が、各所から採集して来た資料に解説を施し、いろいろな視点から自然を紹介します。

常設コーナーを御飯に例えるならば、年度テーマはお総菜ということになりましょうか。多くの方々の試食をお待ちしております。

群馬県生涯学習センター館長 須藤 駿一郎

当センターは昭和62年10月28日に、生涯学習推進の核となる諸機能を備えた総合施設としてオープンしました。その中に、プラネタリウムと科学展示室とからなる少年科学館があります。プラネタリウムは、年4本の一般投影の他に、6本の学習投影番組がいつでも投影できるようになっています。科学展示室は、「動かしてみよう、考えてみよう、確かめてみよう」を合い言葉に参加型の展示構成といたしました。

本年も、青少年の科学的理解と創造力の養成の手助けとなるべく館員一同努力するつもりであります。



栃木県子ども総合科学館長 大塚 弘司

「未来社会への探求」をテーマに、体験を通して科学を学ぶ参加型の科学館として昨年5月にオープンいたしました。お陰様で大変ご好評をいただき、12月末で延43万人の入館者を数え、科学技術の普及啓発の一端を担うことが出来たことを喜んでおります。

本年は、展示品の一部改善など展示の充実をはかるとともに、科学工作、天文、コンピュータ等の各種教室や科学映画会等の催しを各日曜毎に定着化させ、科学館に通い、科学館とともに育つ子どもづくりに重点をおいて運営にあたりたいと思っております。

栃木県立博物館長 渡辺 幹雄

当館は今年開館8年目の新年を迎えました。この間、栃木県内の総合調査を積極的に行ってきましたが、日光・八溝地方に続き実施してきた足尾山地の総合調査が、63年度で終了します。この成果は、来年2月からの企画展「足尾山地の自然」で発表する予定です。今年の4月からは栗山地方の調査を4年計画で行い、その成果についても将来企画展で発表する予定です。一方展示では、2月に企画展「鹿一人とのかかわりの歴史」、7月にミニ企画展（昆虫展）を行うほか、地域移動博物館も6回予定しており、地域に開かれた博物館としても積極的に活動して行きたいと思ひます。

いわき市石炭・化石館長 御所脇 八州男

当館は昨年10月で開館4年目を迎えました。その間常磐自動車道の開通もあり、入館者数も115万人と予想を上回る実績をあげることができました。そんな中で春休みには「地震と火山展」、夏休みにはいわきの自然PARTⅢ「蝶」の特別展を実施し、大変好評をいただきました。今年は常設展示の充実を図ると共に、現在進めております、特産の「いわきスギ」を使用した木造館が4月に完成します。この館は建物自体が展示施設である他、内部は「木の展示ゾーン」「エネルギープレイゾーン」、多目的ホールとなっており、十分活用して館の発展につなげたいと考えております。

郡山市児童文化会館長 大橋 潔

今迄は、どちらかといえばプラネタリウムを主体にした年間事業を計画して参りましたが、次年度においては、すでに前年度に交通模型を計画して予算化し、先進地の広島、静岡を担当職員が視察して両市の長所を取り入れた交通模型を業者に製作依頼中であります。

4月にはこれらの交通模型が稼働いたしますのでプラネタリウムと交通模型を車の両輪のごとく利用して参り

 今 年 の 抱 負

たいと考えております。

更には交通模型を楽しく理解しといただくために模型の中に積極的に参加することにより新しい楽しさと、親しみが生れ、ロマン、そして未来へのあこがれのストーリーが広がればと念じながら初春を迎えております。

福島市児童文化センター館長 鴨 田 喜 夫

昨年は「私たちの鉄道展」を催し、ジオラマに組み込んだ電気機関車やリニアモーターカーの操作と鉄道にかかわる展示を行い好評を博しました。

本年は、燈火の歴史と未来の照明が展望できる展示と市街地に位置する信夫山に関する特別展を行い、子ども達の地域に対する意識を高めたいと考えて現在計画中です。

展示物については、子どもが自らの健康についての関心を持つようなものを充実していきたいと考えております。本年も加盟館各位のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

山形県立博物館長 渡 辺 宏

今年は「奥の細道」紀行300年ということで、東北地方は芭蕉イベントがめじろ押しです。山形県は芭蕉の滞在期間の最も長いところですので、特にいろいろなイベント、展示が企画されております。

当館でも「奥の細道300年展」を特別展として実施すべく、企画立案をしています。県立博物館らしく「奥の細道」の世界を総合的にとらえ、展示したいと考えているところです。また、生涯学習という観点から、県民の要望に応えるよう各種講座、企画展を実施するよう想を練っております。今年も宜しくお願い申し上げます。

秋田県立博物館長 畠 山 芳 郎

“うるおいのある県民文化の創造”を文化行政の基本方針としている本県にあって、当館は秋田の風土と歴史の中で培われてきた伝統文化を継承するとともに、県民の文化創造へのエネルギーを助長し、よりよい地域文化の形成に向けて努めておるところであります。

本年も特別展「日本列島発掘展」をはじめとして、地域展「湯沢・雄勝」・テーマ展「佐竹藩政史展」・「福田豊四郎スケッチ展」や部門展「縄文時代の墓」・「海の鳥類」、「秋田の油井掘」などを展示します。さらに観察教室や採集会などの博物館教室、それに地域調査研究や資料の収集・整備にも努めます。

仙台市科学館長 佐 藤 光 男

今年四月、仙台市はいよいよ政令指定都市に移行しますが、それに相応しい新科学館づくりを今年も進めていきます。

特に、今年は建築工事、展示製作に加えて新館の管理運営計画を固めなければと思っています。その中で、人員の確保は行政改革の進む中で、頭の痛い問題です。

また、現科学館についても昨年の合併による市立小中学校の増加が館の運営に少なからず影響を与えており、昨年に引き続き忙しくなりそうです。

しかし、今年も館員一同力を合せ仕事に取り組んでいく所存です。

斎藤報恩会自然史博物館専務理事 斎 藤 温 次 郎

全科協も発足以来20年近くになり、全科協の事業にもいささかマンネリの傾向が見られるようになって来ると思われます。文部省も昨年「生涯学習局」を新たに設けて発足させ、21世紀に向けた、社会教育の充実を目指して統合を進める方向へ踏みだしている。特に今日、日本は、創造性の大切さが重要な課題として、叫ばれている時に、科学教育の基本ともいえる、科学系博物館全般の資質向上が、今後の大きな課題と云える。そのためにも今後、全科協としては、それぞれ各館の特色を生かした事業研究を進めてゆくべきと考えます。新たな発想で、切角の協議会を活性化す第一年度としたい。

岩手県立博物館長 金 子 彰 吉

当館は開館9年目を迎え、10周年の記念事業の一環として特別企画展「岩手の鉄と鉄工芸」（仮称）を計画し準備に努めてまいりましたが、今年が正念場となりそうです。

次年度の第1回企画展に「ブナ」を予定しています。展示のねらいは、現在自然保護の観点から各地で話題となっているブナを取り上げ、ブナとはいったい何なのか私達の生活とどのような関わりがあるのか、ブナの実体を探ると共に生態系をとおして、ブナ林をとりまく動物等多角的な面からブナの存在意義を明らかにしようとするものです。

また、地質学の急速な進展と新しい知見をもとに、従来の展示内容が旧弊となった地質の展示コーナー「県土の誕生」を全面的に見直しました。映像資料を含めて一新しますので、来館者の皆様に楽しんでいただけるものと確信しております。

 今 年 の 抱 負

札幌市青少年科学館長 国 島 峯 夫

当館の新年は恒例の冬休み特別展（1/5～1/16）で幕開けいたします。今回のテーマは「～君も挑戦～マイクロロボット大会」です。マイクロロボットの実演や競技大会をはじめ、マイコンアイデアコンテストの作品発表など、市民参加の特別展です。

3月には、化学・熱コーナーを一新し、約30点の新展

示物を導入いたします。また、新年度からは、これまでのプラネタリウム小学生向けオート番組「北斗七星物語」に替わる新番組「（仮）悲しきオルフェウス」をリリースするなど、展示、天文事業ともに、これまで以上にわかりやすく楽しみながら科学に親しまれるよう、一層の充実を図ってまいります。

今後とも御指導の程、宜しくお願い申し上げます。

 第74回全国図書館大会第13部会に参加して（短報）

府中市郷土の森博物館学芸員 石 川 博 幸

〔はじめに〕

昭和63年度の大会は、多摩地区の図書館を中心に13の部会に分かれて、去る10月26日から28日にかけて開かれた。

今年度の大会統一テーマは「豊かな地球社会をめざして一図書館と生涯学習」であった。

図書館大会の過去73回の歴史のある大会の中で、今回のように、博物館、公文書館等にみられる、図書館人以外のパネリストを加えた部会は初めての試みであると同様に、博物館施設内での会場で開催されたことも、例を見なかったと開催前から、大きな話題であったと聞く。

図書館人同様に、パネリストとして招請された私、本人も同様な感想を持った。

〔第13部会「開かれた郷土資料（地域資料）のために」〕

多くの公立図書館内には、NDCによる開架方式による書籍が配列され、利用者に供するところは、万人の認めるところであろう。さらにこれら一般書籍の他に、設置者の地域の資料を一ヶ所にまとめ、専用の空間、コーナーを設けている館も多く見受けられる。

この第13部会の出席者の多くは、これら、郷土資料を主に担当している人、感心のある図書館人101名によって開催された。

図書館内での郷土資料の位置づけは、昭和25年施行の図書館法第3条図書館奉仕第1項に掲げられている。すなわち、「郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード、フィルムの収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、一般公衆の利用に供すること。」とされ、多摩地区の図書館では、逐次刊行物、地域に関する新聞記事、古地図、絵ハガキから写真、そして地方古文書の類まで、実に極め細かく収集に務めている現状を眼にみる事が出来、地域史等への情報のサービス化に努

力している。

しかし、過去73回の大会を振り返って見ると、昭和50年の大会以来、なぜか、郷土資料に関する部会は中断されていた。実に、13年ぶりに復活し、参加者の関心が大きく、終了後の反響を見ても肌で感じる事が出来た。

図書館界の中での郷土資料の位置づけは次の足跡をたどることにより、今回の、郷土資料部会の復活、そして将来への期待が理解出来る。

昭和25年 図書館法第3条に明記される。

昭和37年 日本図書館協会から「郷土資料を図書館に収集しよう」提言。

昭和38年 「中小都市における公共図書館の運営」（中小レポートと略）に郷土資料取りあげられる。

昭和52年 日本図書館協会発行『図書館ハンドブック第4版』に“郷土資料”の重要性が再認識された。（初版1952年）

昭和62年 『図書館の第3の時代』—ニューライブラリアンのために—片桐薫著に、地域資料の重要性が大きく取りあげられる。



第13分科会のパネリスト諸氏と筆者（左端）

今回の、開催の中心を占めた多摩地区32市町村の公立図書館の郷土資料担当者による意見交換の場から発足した「三多摩郷土資料研究会」が昭和51年に正式に認められ、資料の充実と、資料の所在目録の発行を重ね、利用者へのサービスの努力を継続しつづけていることが再び図書館大会での部会再開の原動力になった。

郷土・地域に関する資料の収集は、すでに多くの人に利用されている。図書館以外にも博物館施設、公文書館、大学図書館があげられる。

特に博物館では、実物資料の調査、研究のみに止まることなく、資料の背景を調査するうえでの、文献資料の重要性は身にしみて感じられる。それは郷土館や、歴史系博物館のみの独壇場ではないことは言うまでもない。

さらに、近代以降の公文書の収集を主とした公文書館法がようやく昨年12月に成立をみることになった。

今回の部会では、郷土資料を中心に収集、活動している図書館側と類縁機関の担当者が一堂に会し、それぞれの立場から現状を報告し、太いパイプを結び、資料の共有化を計り、利用者へのサービスの向上を、念頭に置いたものであった。

文献資料等での資料の共有化、情報のサービスにおいては、図書館界のシステムに学ぶ点は、私たち博物館側も多くあることと思われ、決して、今回限りの催し物に終ることのないように、類縁機関のネットワークを実現したいと改めて考えさせられた。

最後に、第13分科会のパネリストと発表題名を紹介するとともに、筆者の発表要旨を付記しておきます。全科協加盟館園の方々のご意見をお聞かせいただければ、幸いです。

発表題名と氏名（発言順、敬称略）

1. 地域博物館と情報 府中市郷土の森博物館
学芸員 石川博幸
2. 法政大学多摩図書館地方資料室報告
法政大学多摩図書館
飯村裕次
3. 多摩中央信用金庫の文化活動
多摩中央信用金庫
多摩文化資料室 原嘉文
4. 地域資料と文書館 東京都公文書館
水口政次
5. 三多摩郷土資料研究会と地域資料活動
小平市中央図書館
蛭田広一



発表中の筆者

〔発表要旨〕

地域博物館と情報

石川 博 幸（府中市郷土の森博物館）

府中市郷土の森博物館は、昭和43年4月に現在の府中市立中央図書館と併設された府中市立郷土館の活動を経て、市制25周年記念事業の一環として、昭和62年4月に開館しました。

郷土の森は、博物館、プラネタリウム、古民家園の性格を一つにした総合博物館です。

昭和62年3月現在、全国の博物館の数は、2,554館が増え、ここ数年毎年70館程度が開館しています。博物館の数が増えると同時に、博物館の役割も、少しずつ変化しています。

博物館の役割は、資料中心の保存、展示、研究活動に加えて、情報資料の提供や、体験学習を基本とした教育普及活動の重要性が見直されています。

一方、最近建設される図書館や、博物館施設の共通点も多く見られるようになりました。

図書館の展示物、博物館の公開図書閲覧室の設置等に見ることができます。

更に、活動の共通点にも多く見られます。例えば、展示会の資料の交流、古文書、地図の類の収集活動や、視聴覚教材の製作、購入、そして、図書館内の郷土資料室の図書と、博物館の所蔵する図書の共通性が、特に歴史、民俗系博物館に見ることができます。

博物館の利用者の傾向も児童、生徒から研究を目的とした利用者や、レクリエーションの場所としての利用と、千差万別に広がりつつある中で、学芸員によるレファレンス業務が見直されています。

最近では、コンピュータを利用した情報の提供サービスが博物館界でも話題の中心を占めるようになりました。博物館の情報には、資料の情報と、資料に関連した二次資料の情報の提供があります。二次資料の充実には図書館をはじめとする類縁機関の協力が、利用者へのサービスにつながると考えます。

企画展「おろう そめよう 布まつり」

— ボランティアが活躍した9日間 —

広島市こども文化科学館 指導主事 森野 滋夫

1. はじめに

手づくりの企画展も、今年で11回目をむかえた。毎回、できるだけ子供たちの参加体験を重視し、じかにふれて操作ができるよう職員の企画、製作による展示物を主にした構成としている。

今回は、「布」をテーマに選び、織り、染め及び布を使った工芸等の体験を中心に展開した。

例年通りの手づくりによる多数の展示品や、装置の準備はもちろんであるが、特に「ボランティアによる運営への参加」を掲げて実施したことが、大きな特徴である。

そこで、この企画展参加に応募された一般市民や、協力いただいたアマチュア芸家及び織り、染め等の同好会サークルなど、多くのボランティアの皆さんとの係わりや、その活動の様子を中心に報告する。

2. 開催期間 昭和63年7月23日～31日の9日間

3. 趣旨

長い歴史の中で、他の動物と違って人間だけが育んだ布文化を、楽しくわかりやすい遊びや展示によって体験し、興味と関心を高める。

4. 内容

(1) 機織り体験コーナー

高機、堅機織り機等手づくりの展示物計28台による機織り体験コーナー。

(2) 染色体験コーナー

インドの版木や各種のスタンプを使って短時間で染色体験できるコーナー。

(3) 布のいろいろコーナー

動物、植物繊維や新素材等企業の出品物22点によるコーナー。

(4) 布と遊ぼうイベントコーナー

① 十二単試着コーナー

時代考証して作った十二単（子供用）の試着。

② 巨大機織り挑戦コーナー（屋外）

縦10m、横7m、縦糸φ8mmの綿ロープ100本横糸げん反10（幅20cmのさき織り）

③ ミニ機織りコーナー

自分で織った布をお持ち帰りができるコーナー

④ 高機織り、手つむぎ、パッチワーク実演

⑤ ファッションショー（アポロホール）

⑥ 布クイズスタンプラリー

布に関する問題の正解に関連する展示物のある



巨大機織りで織ったシンボルマーク [左端] とアップリケパッチワークの特大垂れ幕（職員製作）

ところで見つけ、スタンプする。

⑦ くみひも、糸くり体験、ぞうきん早ぬい大会

⑧ こども映画会「つるのおんがえし」など

(5) 作ってみようコーナー

布にかかわる実験や工作の教室を日替わりメニューで毎日行う。

5. 入場料 無料

6. 入館者数 27,863人

7. 予算 1,448千円

8. 実施の基本方針

(1) 職員が企画製作した展示物を主に構成した。

(2) 展示構成は、系統性、理論性を全面に押し出すのではなく参加体験を重視し、織りや染め等のおもしろさや楽しさを身を持って体験できるものとした。

(3) 企業から資材提供を積極的に受け、意外な驚きや興味を喚起させる先端の資料等を集めた。

(4) 展示物の製作については、十分な調査研究と考案試作、改良のもとに行った。

(5) イベント的な企画を多く取り入れた。

(6) できるだけ、ボランティアに、企画、運営に参加してもらった。

◆ 以下ボランティア活動に視点をあてて報告する。

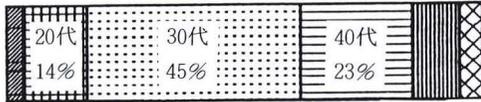
9. 総勢60名に及ぶボランティアの動き

総勢60名におよぶボランティアの協力を得たが、特に、30代～40代のボランティアは、地域の子供会活動やお年よりに対してのボランティア活動に携わっている人が多く、興味や関心のあることから、積極的に取り組もうとする姿勢がうかがわれた。

また、織りや染めなどのサークル活動や自分の趣味など余暇利用をもっと充実させたいという目的で参加している人や、社会教育施設で自分の特技や特殊な能

力を発揮し、生きがいや社会参加の意志を実現したいという人もいた。

ボランティアの年齢層



10代 3% 男性1名 女性59名 50代 60代 10% 5%

(1) 内訳

- ① 広島市の広報紙「市民と市政」による一般公募ボランティア19名。この中には、中学生1名、高校生1名（いずれも女性）の参加があった。
- ② 市関連施設からの紹介で個別に参画を働きかけた同好会及び一般工芸家ボランティア。
 - ア. 草木染め手織り同好会（10名）
草木で糸を染めて布を織っている市内及び近郊のグループ。
 - イ. 染色グループ（5名）
草木や化学染料を使って染色を行っている染色グループ。
 - ウ. パッチワークグループ（2名）
アメリカンキルトやアップリケキルトを中心としたパッチワークを行っている工芸グループ。
 - エ. その他、麻やロープ等を使った前衛工芸家とそのグループ（5名）や、小、中学校の家庭科教師（5名）、一般主婦の愛好家など（14名）のグループ。

(2) ボランティアの事前打合せ

- ① 実技を伴う「機織り、染色体験コーナー」について、一般公募ボランティアを対象に2回にわたって事前打合せを実施した。
 - ア. 第一回目
機織り機<高機、堅機、卓上（小・中型）>及び型押し染色の実技について。



染色の事前打合せ

内容：草木染め手織り同好会や染色グループの協力を得て、4種類の機織り機の操作方法及び糸整形の技術や型押し染色の製作手順を一般公募ボランティアが習得した。

イ. 第2回目

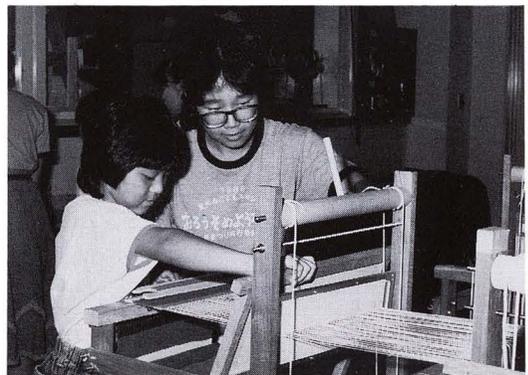
機織り、染色体験コーナーの運営について。
内容：機織り操作及び染色処理に伴う基本的事項に留意し、同好会や染色グループと一般公募ボランティアの9日間のスケジュール表を作成し、単なるお手伝いではなく、ボランティアの手による運営を目指した。

- ③ 高機織り、パッチワークの実演については、実演時間が重ならないように留意し、随時打合せ会を開き、9日間の実演時間帯を作成した。
 - ・草木染め手織り同好会、パッチワーク工芸家。
- ④ 布のワークショップについては、9日間の題材と活動時間帯について、打合せ会を開いた。
 - ・小・中学校の家庭科教師と一般主婦の愛好家。
- ⑤ 巨大機織りに挑戦については、屋外での実施場所の検討や織り機の製作等の打合せを、随時開いた。
 - ・前衛工芸家

10. ボランティア活動の概要

(1) 機織り体験コーナー

- ① 職員製作の機織り機を使い、子供たちが遊びながら織りの基礎、原理、応用等について体験し興味を喚起することをねらいとした。
- ② 色や織り柄を変え、老若男女を問わず何回でもシャトルをかける姿がとても印象に残った。
使用した機織り機（職員製作）
高機織り機 4台、堅機織り機 4台
中型卓上機織り機 4台、小型卓上機織り機16台
- ③ 運営は、一般公募ボランティア（常時6～9名）と草木染め手織り同好会（常時3～5名）による。



機織り体験コーナー

(2) 染色体験コーナー

- ① 短時間で染めが直接体験でき、仕上がったものは、おみやげとして持ち帰りができることをねらいとした。インドに古くから伝わっている本物の版木や職員製作の各種のスタンプと企業から寄贈された染料（ピグメント7色）を使って、参加者の自由な発想で、色のかすれ、規則的な配列の重なり等のおもしろさを味わわせた。
- ② 子供たちの、夢と創造性をかき立て、たいへん喜ばれた。
- ③ 運営は、一般公募ボランティア（常時2～3名）と染色グループ（常時2～3名）による。

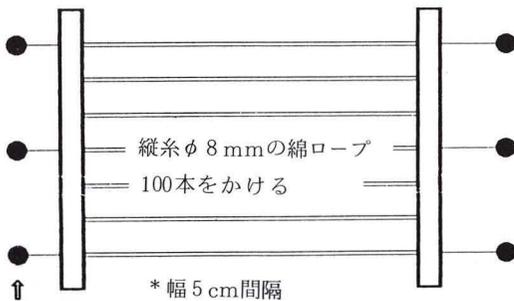
(3) 布のワークショップコーナー

- ① 布を使った楽しい工芸を日替わりメニューで準備し、布への興味・関心を図り、仕上がったものは、おみやげとして持ち帰りができる。
- ② 連日子供連れの家族が順番を待ち、ミシンをかけた、縫い合わせたりする姿が印象的だった。
 - ・メニュー
 - おてだまづくり、きんちゃくぶくろづくり、ティッシュペーパー入れづくり、ウォールポケットづくり、弁当箱入れづくり、手下げぶくろづくり、小物入れぶくろづくり
- ③ 運営は、小・中学校の家庭科教師と一般主婦の愛好家による。

(4) 巨大機織りに挑戦コーナー

- ① 子供から大人まで、幅広い層の参加ができ、楽しみながら織りの原理を知ってもらうことをねらいとした。

巨大機織り（縦7m、横10m）



樹木に固定

* 横糸は、布のげんたん（10反）を幅20cmにさいて使用する。

- ② 延べ250人ものが、当館のシンボルマーク織りに挑戦し、みごとに完成した。できあがったシンボルマークは開催中建物の壁面につるした。



染色体験コーナー

(5) 高機織り、パッチワークの実演コーナー

- ① 先人たちの知恵や技術を実験を通して紹介することをねらいとした。
- ② パッチワークでは、100年前の本物のキルト地を使用し、ひと針縫っては模様をつけるようすに、感嘆の声をもらしていた。また、高機織りでは、縦糸と横糸が複雑にからみあい、織りなす模様的美しさや知恵に驚き、足を止めて見入る姿がとても印象的だった。

11. 成果

- (1) 無償でしかも総勢60名におよぶボランティアスタッフの手による運営は過去の企画展に例を見ない。機織り体験、染色体験、布のワークショップ等、非常に好評であったのは、実にこのスタッフの活躍と熱心な努力があったからである。
- (2) 一般公募ボランティアや芸芸家等も、ふだんなかなか参加することのできない社会教育の場で、充実した数日間を過ごしてもらえた。

また、ボランティア相互の交流の輪が広がり布に関する各種の技法や知恵等が高められ、今後の地域での活動や余暇の創造的活動に役立ててもらえると思う。
- (3) 体験終了後のミーティングでは、ボランティアの意見を十分に聞き、明日への運営に十分反映するように心がけた。
- (4) 今回の公募条件では、3日間それぞれ全日参加できる人という厳しい条件だったため、ボランティアから、「午前だけ、または午後だけなら参加できる人にも来てもらえるような条件だったら、もっと希望者があることだろう。」という声があった。

12. おわりに

(1) 「また、何かあったら呼んでくださいね。」「次回の企画展も是非ボランティアとして参加させてください。」などの声が企画展終了後の反省会で出てきた。その背景には、人間として主体的に自己表現する場を求めたり、社会参加の意志を実現したいという欲求がうかがえる。

すなわち、単なる奉仕にとどまらず、自分の分野以外に、あらゆる分野について、好奇心・向学心から懸念に自ら学習をしようとしているのである。

(2) 館とボランティアとの係わりは過去数回あるが、それぞれ単発で終わっている。

今後、これらの成果をさらに発展させ、日常的・継続的・計画的なとりくみの中で、ボランティアと

のきずなを一層深め、何を、どのように、どこまでやるのかを明確にしながら、活動の場を提供することによってボランティアの輪を広げて行くことが、社会教育施設としての当館の大きな課題である。

(3) ボランティアの費用については、今回すべて無償をお願いをした。しかし、社教審答申にもあるように、交通費、昼食代ぐらいは、施設が負担すべきであろう。

今回、全科協ニュースの紙面をかりて当館のボランティアを導入した未熟な実践の内容を紹介させていただいた。

同様なとりくみをされている会員各館園の皆様のご意見をいただければ幸いです。

全科協 北から南から

全科協加盟館の出版物

○「倉敷の海辺のいきもの」第5回特別展解説図録
1988. 11 倉敷市立自然史博物館

○児童館でできる手作り作品集(第1集) 1988. 3
東京都児童会館

児童会館で行っている“つどい”や“クラブ活動”のメニューを収録したものです。身近な材料を使った簡単にできる工作、手芸やおもちゃが、25種類紹介されています。第2集では、おもしろい電子工作や実験を紹介する予定。

お問合せ 電話03-409-6361, FAX03-407-8364

○郷土と博物館 第34巻第1号 1988. 9
鳥取県立博物館

○特別展図録「北奥の甲冑展」 1988. 11
岩手県立博物館

○特別展図録「鯨と海獣の歴史をさぐる」-海生哺乳類化石図録- A4判 32p. 販売価格800円

申込先: 岩手県立博物館 電話0196-61-2831

○『プラネタリウム研究』第5集 昭和63年度 1988. 11
全国プラネタリウム連絡協議会 発行

目次

1. 天文情報サービスとしてのテレホンサービス
天文博物館五島プラネタリウム 金井 三男
2. 全自動方式によるプラネタリウム番組の共同製作について
新潟県立自然科学館 坂井 章
3. 天文指導者の養成とその活動について
市立名古屋科学館 北原 政子

4. 普及教育活動の現状とこれから

大阪市立電気科学館 加藤 賢一

5. 工作学習を加えた学習投影

習志野市教育センター 木村 勲

6. 恒星の固有名について

人吉球磨カルチャーパレス 藤山 浩之

7. ドームスクリーンの再塗装を終えて

札幌市青少年科学館 杉本 和則

8. 全天投影機の活用

平塚市博物館 沢村 泰彦

9. 杉並多目的ビデオプロジェクトシステムについて

杉並区立科学教育センター 伊藤 昌市

10. 星空を見つめて

京都市青少年科学センター 江上 賢三

問合せ先: 天文博物館五島プラネタリウム
電話03-407-7131 EX. 338

事務局から

○第18回全科協「博物館事業研究会」開催予定(平成元年3月7日~3月9日) 今回の研究会では、博物館の展示・教育普及活動をテーマに、加盟館園で実施された事例をもとに研究討議します。実施要綱・参加申込書は、別便で各館園宛にお送りします。できるだけ多くの方に、参加いただきたいと思ひます。

○昨年11月に、加盟館園にお願ひしました加盟館園実態調査票にご協力いただきありがとうございました。現在その集計を行っています。お手数をおかけしますが、まだお送りいただけていない館は、至急事務局宛にお送り下さるよう、お願いいたします。

全科協米国科学系博物館視察研修団 無事帰国

去る12月20日に帰国した米国科学系博物館研修団参加者の成田空港での第一声を紹介します。次号以降において詳しい報告を予定していますが「第一声」を聞く限り、意義深く、楽しい旅行であったようです。本年も理事会、総会の議を経て海外視察（欧州など）が企画されることとなるが、積極的に参加されるよう関係者のご理解を切に賜りたい。

■スミソニアン博物館を見て、規模の大きさ、スタッフが充実していることと、普及活動に非常に感銘をうけた。又、アメリカの自然に直接ふれることができ、大変有意義であった。今後の計画には、規模の小さい博物館も入れてもらおうと有意義であると思われる。

（山口県立山口博物館 橋本 恭一）

■楽しかった。紅一点でがんばりました。アメリカの博物館の色の使い方が楽しく、とても参考になりました。とても楽しい旅行でした。

（株式会社トータルメディア 佐方 まさ子）

■国立科学博物館の入場者を見ると18才以下の子供達の占める割合は60%強であるが、今回視察した博物館ではほとんどが逆に40%前後のようである。展示場にいると実に家族連れや二人連れが多く見受けられ、いかに大人の入場者が博物館に通っているか、考えさせられた。

団長（国立科学博物館 太田 貢）

■サンフランシスコのエキスポラトリウムが大変参考になった。展示物が手作り、子供が興味をおこすものが多かった。

（滝川市教育委員会社会教育課 佐藤 俊朗）

■全体を広く浅く見てまわったので、次の機会には、教育活動の中味（特にミュージアムティチャー、ボランティアをどのように教育しているか等の教育手法について）を調べたい。

（伊丹市立博物館 坂根 隆治）

■今回の旅行は、博物館の視察が $\frac{1}{2}$ 、グルメが $\frac{1}{3}$ 、ショッピングが $\frac{1}{3}$ と充分楽しませてもらいました。ジオラマがすばらしく、実物標本が多い。又ホールが大きい。博物館のレポートについては、後日ご紹介します。

（埼玉県立自然史博物館 本間 岳史）

■どこの博物館も建物が大きいこと、標本資料の豊富なこと、それに本物をおしげもなく展示していることに驚かされました。明日から仕事をやる上で、大いに参考になった。

（国立科学博物館 鈴木 照夫）

■大変よかった。特に違った文化を目のあたりに見たことが、今後の生活に大変有意義であった。

（株式会社乃村工芸社 武居 清）



米国科学系博物館視察研修団一行
（於：ワシントンD.C.）

■大変参考になりました。大きいことではほんとにびっくりしました。

（科学技術館 齊藤 和英）

■太田団長をはじめ、事務局の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。行く先々で多くの方々から歓迎を受け、身にあまる思いでした。充実した中味の濃いオリエンテーションを受け、視察の重みをずっしり感じると共に想像以上のスケールの大きさと見るもの、触れるものすべて初めての体験に興奮の連続でした。私の生涯忘れることの出来ないこの貴重なツアーをこれからの仕事に生かせるよう復習をしっかりと時間かけてしております。

（株式会社パリスアート工房 清水 弥太郎）

■エキスポラトリウムの展示物が私が作っているのと同じで、大変参考となった。今後は日本人として、自分のアイデアで子供がさわられる展示品を売りこんでいきたい。

（山口県立山口博物館 佐伯 陽一）

■非常に興味ぶかかった博物館はエキスポラトリウムである。展示に対する解説を少なくし、来館者自身が展示を自由に触りながら考え、遊びながら理解していく展示方法は、むずかしい自然科学の世界を、わかりやすく教えている。又、スミソニアン博物館の規模の大きさ、圧倒的な展示室には驚かされた。

（株式会社乃村工芸社 奥村 晟）

■アメリカの博物館のスケールの大きさに驚くとともに、教育機関として、教育に力をいれていること、ボランティア活動も活発で、友の会、さらにはミュージアムショップに非常に力をいれていることに感心させられました。大変参考になったばかりかメンバーにも恵まれ、生涯忘れ得ない楽しい旅であった。素晴らしい添乗員堀田さんにもこの場を借りて、お礼を申し上げます。

事務局（国立科学博物館 森 廣美）

[加盟館紹介]



ハッシーワールド

豊橋市自然史博物館

TOYOHASHI MUSEUM OF NATURAL HISTORY

〒441-31 愛知県豊橋市大岩町字大穴1の238

電話 0532-41-4747 FAX 0532-41-4728

建物形式 鉄筋コンクリート平屋建て(一部二階建て)

敷地面積 18400㎡ 建物床面積 3587㎡

展示室面積 1870㎡ 開館 昭和63年5月1日

1. 施設の概要

豊橋市が市制施行80周年(昭和61年8月1日)の記念事業(2カ年継続事業)として建設いたしました。

地球の歴史、生物の進化及び自然の仕組みをテーマに、系統的に展示してあります。なお生涯教育の場として、子供から大人まで楽しみながら観覧できるよう展示解説等配慮してあります。

この博物館建設のきっかけは、米国デンバー自然史博物館と本市の友好提携に伴い、草食恐竜アナトサウルスの実物化石を購入したことによるものです。建物は、左右対称の扇形をしたユニークな外観で出来ており、外壁はエジプトで産出する砂岩の色を用いています。館内は人間工学的立場から、広くゆったりと見ていただけるよう順路展示等が工夫してあります。

開館時間 AM9:00~PM4:30

休館日 月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の時は、その翌日が休館日)

年末年始(12月29~1月1日)

入館料 大人300円、小人100円

団体30名以上(大人240円、小人80円)

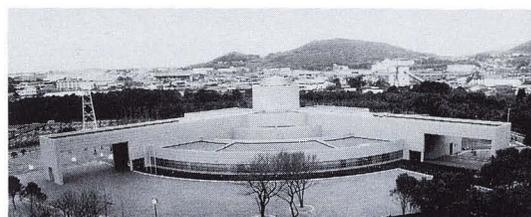
2. 展示概要

入口を入ると、動刻ティラノサウルスが大声を上げながら口と手を動かし、来館者を迎えます。タイムトンネルでは、音と光と映像で現代から過去にタイムトリップし、古生代展示室へ入っていただきます。

- 古生代展示室 地球の誕生から生命の誕生までのドラマを映像で紹介、カンブリア紀、オルドビス紀、デボン紀の代表的な海に棲む生物、石炭紀、ペルム紀の紹介ジオラマと、古生代の実物化石等展示。

- 中生代展示室 肉食恐竜アロサウルス、草食恐竜ステゴサウルス、海生の爬虫類プレシオサウルスのレプリカが目にとまります。中生代の三つの時代のジオラマを中心に、海に栄えたアンモナイトの化石をはじめ、恐竜の卵や糞の化石も展示してあります。

- アナトサウルス展示室 当館のメイン展示物。サウス



館正面

ダコタ州で発掘された実物化石(約90%がほんもの骨です)

- 新生代展示室 ナウマンゾウとオオツノジカの骨格模型。パレオパラドキシアの棲む海辺のジオラマ。ウマやゾウの進化のようす。関節ロボット(ハンドルを回すことによってウデ、ヒレ、ハネの動きのちがいをみる)ミニシアターで各時代の復習ができるビデオの上映。

- 郷土の自然史展示室 豊橋を中心とした東三河地方は海あり山あり平野ありで数多くの動植物、岩石等が見られます。それらの自然に関するバラエティーに富んだ展示紹介。

- ガラパゴス展示室 当館のテーマでもある生物の進化をダーウィンの「進化論」の舞台となったガラパゴス諸島の様子をしめすジオラマを中心に紹介。

その他として、化石を知るコーナー、ビデオトークQ&Aコーナーで自然に関するクイズやビデオを紹介。生きている化石植物の展示を兼ねた庭園。また館外には、三体の実物大の恐竜模型と、恐竜をデザインしたスベリ台で楽しく遊んでもらう施設が設けてあります。

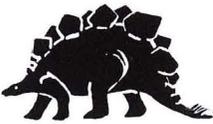
3. 教育普及活動

市内小学4年、中学1年を対象に、郷土社会学習及び野外活動の一環として、学芸員等の指導のもとに館を見学。広報施設見学会で、市内の諸団体の人々を同様に案内。自然史講座(年7回)学習教室(年6回)映画会(年4回)その他展示会として、特別展「郷土の昆虫大集合」開館記念写真コンクールを開催。また研究活動については、郷土の地域に係わるものを中心に行ない、資料のより充実をはかるために、収集活動を行なっています。

4. 出版物 『博物館展示案内図録』

今年もよろしくお願ひ申しあげます

「恐竜マグ」発売元
 博物館・科学館の記念品
 オリジナル商品の企画・製作



TEL. 03-467-6555 株式会社 アンティー
 FAX. 03-467-6568 〒150 東京都渋谷区神山町5-17-203

斬新な企画とアイデアで科学をディスプレイする。
Science & Display これが目標です。

 **株式 会社 サテテイト**

東京都渋谷区神宮前3-10-12
 TEL. (03)478-0055(代表)

「見る」から「参加する！」
博物館づくりを提案します。

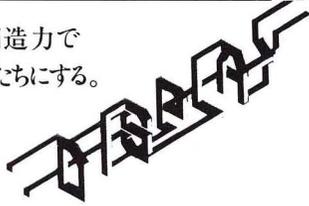
UCHIDA

ユークラス
UCMS
 UCHIDA CULTURE MUSEUM SYSTEM

内田洋行 教育機器事業部
 東京・大阪・札幌・福岡

東京営業部/本部 〒104 東京都中央区新川2-4-7 ☎03(555)4216

限りない創造力で
 情報をかたちにする。



 **三和アドバタイジング株式会社三和通信社**
 本社 東京都中央区八重洲2-6-7 〒104
 TEL.03-281-1051

ユニークなディスプレイ
 企画・設計製作・施工

お お み
om 大 味

〒116 東京都荒川区町屋6-6-5
 TEL. 892-2796(代) FAX 819-2821

恐竜復元模型 (ティラノザウルス
 アローザウルス
 トリケラトプス etc.)

- 化石標本
- 動物骨格標本
- 各種実験装置
- 天体フィルム

その他、博物館、科学館、展示品一式。

(株)ゼネラルサイエンスコーポレーション
 〒107 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
 TEL.03-583-0731

・博物館
 ・科学館

企画
 設計

制作
 施工

学研 環境メディア部
 〒146 東京都大田区仲池上1-17-15(学研第2ビル)
 TEL 03 (726) 8761

展示・教材用各種標本・試料
 世界各国より優れた商品を輸入

(地学標本,化石,レプリカ,ジオラマ,視聴覚教材と)
 (機器,天文資料,科学実験機器,教材用模型)

創和科学(株) 東京都新宿区新宿4-1-22
 新宿コムロビル701(〒160)
 TEL 03 (353) 7297

超大型写真づくりで40年。
 私たちは、きびしい要求をひとつづつ消化してきました

クリエイティブ・フォト

 **株式会社 ササオ**

〒110 東京都台東区台東1-32-2 ☎(03)834-3565代



株式会社 **東京スタデオ** PHONE:03-946-8241
 本社 東京都豊島区駒込1-14-6

営業所 札幌 浜松 豊橋 京都 福井

今年もよろしくお願ひ申しあげます

壁面展示を美しく安全に吊る・(釘打ち不用)

コルダライン

ピクチャーレール PAT, PD (フィラティン・シグマ応用)

(製造元) 株式会社 **中村多喜弥商店**
NAKAMURA TAKIYA CO., LTD

- 本 社：〒542 大阪市南区島之内1-10-12
☎06-253-0331(代) ファクス06(253)0339
- 東京営業所：〒135 東京都江東区三好3-8-15
☎03-642-3801(代) ファクス03(543)0096

確かなかたちで、伝えたい。

私たちは博物館の展示・創造を通して、
明日へのコミュニケーション活動を広げています。

株式会社 **乃村工芸社** 文化施設事業部

本社：東京都港区芝浦4-6-4 電話03-455-1171代表
東京・大阪・札幌・仙台・岐阜・神戸・岡山・福岡・鹿児島

ユニークな企画と
定評ある表現技術

株式会社 **西尾製作所** NISHIO BIOLOGICAL MODELS CO., LTD.

〒607 京都市山科区 柳辻池尻町48-4
TEL. 京都 (075)594-0181(代) FAX. (075)593-2384

展示用・研究資料

鉱物・化石標本専門

凡地学 研究社

〒113 東京都文京区千駄木3-33-1
TEL. 03(821)6941 FAX. 03(824)9134

ここに伝えたい

日精株式会社 展示造形本部

〒105 東京都港区西新橋1-18-17(明産ビル) ☎03(502)3471(代)

創合力で、ミュージアムの 明日をカタチにします。

DISPLAY & INTERIOR Murayama 株式会社 **ムラヤマ**

〒112 東京都文京区後楽2-13-10 Phone: 03-813-1201
東京/大阪/名古屋/横浜/千葉/神戸

IBM

社会とともにIBM

日本アイビーエム株式会社

本社
〒106 東京都港区六本木3-2-12
☎(03)586-1111(代)

様々な発想、確かな技術 と科学のディスプレイ

MEGA SYSTEM DEVELOPMENT

企画・設計・製作

株式会社 **メガ・システム開発**

〒153 東京都目黒区目黒1-2-23-10号 TEL. 03-493-8864 FAX. 03-493-1870

鉱物岩石化石標本 地形模型・歴史科模型 製作

株式会社 **ノーベル社**

〒113 東京都文京区本郷3-9-5 TEL. 03(811)7381
工場 〒203 東京都東久留米市浅間町3-24-18 TEL. 0424(21)2415

事務局から

博物館・科学館等の展示、教育普及活動等に関係
ある業種の広告を、この全科協ニュースに掲載希
望の場合には、お問い合わせください。

〒110 台東区上野公園 7-20

国立科学博物館内 全科協事務局

電話 03-822-0111(代) FAX 03-824-3298

